



2学期を終えて

12月
25日
2学期が

終わります。86日間と昨年より少しだけ長い2学期でした。コロナ禍、熊の出没などがありできなかった行事もありましたが、子どもたちは、前向きな気持ちを忘れませんでした。自分にできることを見つけ、目の前のことに精一杯取り組む姿を見せてくれました。



運動会などの行事では高学年を中心に今年にしかできないことに挑戦し元気に頑張っていることをアピールしました。また、教室では真剣に、そして友だちと協力しながら学び進める姿が見られました。心に残るシーンが数多くありました。

学校の中では、子ども同士がふれあい、ぶつかり合い、学び合いながら生活しています。日々生まれる嬉しいことや苦しいことの中に意味を見出し成長しています。2学期もそれぞれに成長がありました。このように、波佐小学校の教育活動が充実したものになったのは、保護者・地域の皆様の支えのおかげです。本当にありがとうございました。来学期もよろしく願いいたします。年の瀬となりました。皆様良い年をお迎えください。



複式教育の発表をしました

波佐の子のよさは、「難しい課題でも闘志を燃やし粘り強く取り組む」「新たな挑戦を楽しむ」「知識を得たりできるようになったりすることに喜びを感じる」「友だちと意見を出し合ったり討論したりできる」「自分の考えを自分らしく表現できる」ところです。この様なよさを学習を通してさらに伸ばしたいと考えています。

その取組の一環として12月2日に【島根県複式教育推進指定校事業】の研究発表会を行いました。当日は17名の参加者を迎え3・4年生の子どもたちの算数の授業を公開しました。



両学年ともに、“問題を解き、自分の考えを説明する”学習活動でした。“説明”するには“しっかりと理解し、相手に分かるように整理して話す”ことが求められます。子どもたちにとってはハードルの高いものでした。

いつもと違う雰囲気の中で子どもたちは、「昨日の勉強を使ってみよう」「図に書いて考えよう」「多分こうだけどはっきりしないなあ」「うまく説明ができないなあ」などと漏らしながら、自分で考え、友だちと話し合いながら、あきらめることなく頑張りました。参加された他校の先生からも“波佐の子のよさがみられる授業だった”とお褒めの言葉をいただきました。

波佐小学校のような複式学校の授業では、2学年並行して授業を進めるので、教師が直接かかわれない時間があります。ですから、子どもたちは“自分で見通しを持ち、試行錯誤しながら課題に取り組む力”“友だちと意見を交わしながら自分の考えを形作る力”が必要となります。(先述の通り波佐の子はこれらの力のベースとなる良さを持っています。)

この様な考え方は、改訂された学習指導要領で求められる力と重なるものであり、予測が難しいこれからの時代を生きていく子どもたちに必要な力です。本校では子どもたちにこのような力を育てたいと願い日々授業を工夫しています。



書き初め練習&そぐりました

書き初め練習をしました。心地よい緊張感の中で、子どもたちは真剣に、丁寧に書いていました。集中のあまり息をするのを忘れてしまう子や、書いた字とにらめっこし頭を抱える子、下に敷いている新聞紙の余白に鉛筆で何やらびっしりと書き込んでいる子(どうやら気を付けることを書き込んでいたようです)。とても微笑ましい姿でした。



縄作りに使う稲をそぐりました。秋に刈った、はざっこ米の稲です。初めての体験でしたが講師の皆さんにうまいと褒めてもらいました。



書き初め練習をしました。心地よい緊張感の中で、子どもたちは真剣に、丁寧に書いていました。

集中のあまり息をするのを忘れてしまう子や、書いた字とにらめっこし頭を抱える子、下に敷いている新聞紙の余白に鉛筆で何やらびっしりと書き込んでいる子(どうやら気を付けることを書き込んでいたようです)。とても微笑ましい姿でした。

1月行事

- 8日(水) 始業式 給食開始
 - 12日(火) 4校時授業
 - 10日(金) 書初め会
 - 13日(水) 校外班会
 - 19日(火) スキー教室
 - 20日(水) JP貯金
 - 21日(木) 児童集会
 - 27日(水) 学習公開日
- 学校保健委員会

頑張った!波佐っ子

- ◆第70回社会を明るくする運動作文コンクール
- ◆島根県図画作品展

<表彰の記録>